

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	歴史総合	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

- ①世界と日本の近現代の諸事象について、広く相互的な視野から理解を深め、歴史に関する諸資料を適切に調べまとめる技能を身につける。
- ②世界と日本の近現代の諸事情について、相互の関連や現在とのつながりに着目しながら、多面的・多角的に考察し、考察したことを説明・議論する力を養う。
- ③世界と日本の近現代の諸事情について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及・解決しようとする態度を養うとともに、自国の歴史や他国の歴史を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容を記録しているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

教科書・・・『歴史総合 新訂版 むすびつく世界と日本』（実教出版）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容		考查範囲	時数			
前 期	4月	第1編 近代化と私たち		定期 考 査 1	20			
		第1章 近代化への胎動	1 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2 江戸時代の生産・流通と諸改革 3 幕政の改革と東アジア世界					
		5月	第2章 欧米の市民革命と西洋の衝撃			4 イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5 フランス革命とウィーン体制 6 アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7 オスマン帝国の衰退とロシア 8 アヘン戦争の衝撃と日本の開国		
	6月		9 江戸幕府の滅亡					
			第3章 欧米諸国と日本の国民国家形成			10 イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツの統一 11 明治政府の諸改革 12 日本のアジア外交と国境問題 13 自由民権運動と大日本帝国憲法		
	7月		第4章 帝国主義の時代			14 帝国主義の時代へ 15 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 16 日清戦争後の東アジア	定期 考 査 2	18
	8月		17 日露戦争と東アジアの変動 18 日本の産業革命					
		第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち						
	後 期	9月	第5章 第一次世界大戦と大衆社会			19 第一次世界大戦 20 ロシア革命とソ連の成立 21 米騒動とデモクラシー 22 ヴェルサイユ体制とワシントン体制	定期 考 査 3	18
		10月				23 アジアの民族運動 24 第一次世界大戦後の欧米諸国 25 ひろがる社会運動と普通選挙の実現		
11月		第6章 経済危機と第二次世界大戦	26 世界恐慌と各国の対応 27 ファシズムの時代 28 満州事変と軍部の台頭					
12月			29 日中戦争と戦時体制 30 第二次世界大戦の勃発 31 第二次世界大戦の終結					
			32 国際連合の成立と冷戦					
		1月	33 日本占領と日本国憲法 34 朝鮮戦争と日本	定期 考 査 4	22			
第3編 グローバル化と私たち								
2月		第7章 冷戦と脱植民地化 第8章 多極化する時代 第9章 グローバル化と現代世界						

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	世界史探究	単位数	4単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

- ①地理的条件や日本史と関連付けながら世界史の枠組みと展開に関わる重要な事象を理解し、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける。
- ②世界史の枠組みや展開に関わる諸事象の意味や意義などを、時期や年代、推移、比較、相互関連や現代世界とのつながりに注目して、多面的・多角的に考察したり、歴史的な諸課題を把握し、解決策を構想する力や、考察・構想した内容を効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
- ③よりよい社会の実現を目指し、歴史的諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養い、多面的・多角的な考察や理解を通して日本国民としての自覚、国土に対する愛情、世界諸地域の多様な文化を尊重することの大切さなどを深める。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切で効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容を記録しているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

教科書・・・『世界史探究』（実教出版）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考查範囲	時数		
前 期	4月	1. 諸地域の歴史的特質の形成 ①古代文明 農耕と牧畜のはじまり オリエント文明、インダス文明、中国文明	定期 考査 1	40		
	5月	②東アジアと中央ユーラシア 春秋戦国時代、中国古代帝国と東アジア 中央ユーラシアの国家形成、胡漢帝国				
	6月	③南アジアと東南アジア インド古典文化の形成 古代東南アジアと海のシルクロード ④西アジアと地中海周辺 オリエントの統一、ギリシア文明、ヘレニズム時代 ローマ帝国、西アジアの国々と宗教				
	7月	⑤西アジア・地中海周辺 の変動とヨーロッパの 形成 ビザンツ帝国とギリシア正教圏、 ラテン＝カトリック圏の形成と発展、 イスラーム圏の成立				
	8月	2. 諸地域の交流と再編 ⑥イスラーム圏の拡大と ヨーロッパ社会の変質 イスラーム圏の多極化と展開 ラテン＝カトリック圏の拡大、動揺と秩序の変容			定期 考査 2	36
9月	⑦中央ユーラシア諸地域の 交流・再編 中央ユーラシア諸民族と東アジア名の変容 モンゴル帝国の成立、東南アジア諸国の再編 海域世界の展開と大交易圏の成立					
	⑧大交易時代 明と東アジア、ヨーロッパの海外進出					
後 期	10月	⑨アジア諸地域の帝国 大交易時代の海域アジア 中央ユーラシアと西アジアの帝国 東南アジアの帝国、東南アジア諸国の発展 清と東アジア	定期 考査 3	36		
	11月	⑩近世ヨーロッパの形成と展開 ルネサンスと宗教改革、主権国家体制の成立 近世ヨーロッパの社会と文化				
	12月	3. 諸地域の結合と変容 ⑪産業革命と大西洋革命 イギリスの産業革命、南北アメリカの革命 フランス革命とナポレオン帝政				
	1月	⑫近代ヨーロッパ・アメリカの 国民国家 ウィーン体制と1848年の革命 19世紀のヨーロッパ・アメリカ				
	2月	⑬地球を覆う帝国主義と諸地域 の抵抗 ヨーロッパとアメリカの帝国主義 西アジアの改革運動、アフリカの分割と抵抗 インド・東南アジアの植民地化と民族運動 東アジア世界の再編				
	3月	⑭第一次世界大戦と諸地域の 変容 第一次世界大戦、ヴェルサイユ体制と国際協調			定期 考査 4	44
		⑮第二次世界大戦と戦後の 国際秩序 アジアのナショナリズムの台頭 世界恐慌とファシズム、満州事変と日中戦争 第二次世界大戦、戦後変革と冷戦				
	⑯科学技術時代と知識基盤社会 科学技術と環境・平和、ICTと情報化社会					

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	日本史探究	単位数	4単位
-----	-------	-----	-----

1 科目の目標

- ①原始・古代から現代にいたるまでの日本の歴史的諸事象について、広く相互的な視野から理解を深め、歴史に関する諸資料を適切に調べまとめる技能を身につける。
- ②世界と日本の同時代の諸事情について、相互の関連や現在とのつながりに着目しながら、多面的・多角的に考察し、考察したことを説明・議論する力を養う。
- ③世界と日本の歴史的背景を学ぶなかで、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究・解決しようとする態度を養うとともに、自国の歴史や他国の歴史を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切で効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容を記録しているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日本の原始・古代から現代までの全時代を主体的に学び、それぞれの時代におけるさまざまな歴史事象の背景を自らの問題意識をふまえて理解を深める。そして現代の日本、世界が直面している政治、経済、社会、文化等について自らの問題意識をもって考え、行動できるようにする。

5 教科書・副教材

教科書・・・『精選日本史探究』（実教出版）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考查範囲	時数
前 期	4月	原始・古代の日本と東アジア 国家と文化の形成	定期考查1	40
	5月	古代国家の確立		
	6月	中世の日本と世界 中世社会の成立		
	7月	中世社会の展開	定期考查2	36
	8月	近世の日本と世界 統一政権の成立		
9月	幕藩体制の展開			
後 期	10月	産業の発達と都市の繁栄 徳川吉宗・田沼意次と幕府の財政問題	定期考查3	36
	11月	商品経済の発達と民衆運動 寛政・天保の改革と江戸時代後期の		
	12月	近現代の地域・日本と世界 大日本帝国の形成	定期考查4	44
	1月	大日本帝国とデモクラシー 社会問題と地域社会・大正デモクラシー		
	2月	アジアの戦争と第二次世界大戦 普通選挙と治安維持法・満州事変		
3月	現代の日本社会の形成と展開 世界の中の日本占領			

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理総合	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

- ①世界の生活文化の多様性や、防災など地理的諸課題への取組などを理解し、地図や地理情報システムなどを用いて、情報を適切で効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ②地理的事象の特色や意味、関連性などを、位置や分布・人間と自然環境との依存関係などに着目し、多面的・多角的に考察し、地理的諸課題の解決に向け構想する力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を養う。
- ③よりよい社会の実現に向け、地理的諸課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や理解を通して日本国民としての自覚、自国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切で効果的に情報を集め、読み取り、まとめる技能を修得する。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容を記録しているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

教科書・・・『高校生の地理総合』（帝国書院）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数			
前 期	4月	第1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 第1章 地図や地理情報システムと現代世界	定期考査1	20			
	5月	第1節 地球儀と地図 ①地球上の位置と地上の現象、緯度と経度 ②球体と平面の世界 第2節 地理情報システム ①地図の種類 ②地理情報システムの利用					
	6月	第2章 結びつきを深める現代世界 第1節 現代世界の国家と領域 ①国家の領域と国境 ②地図から見る日本の位置と領域 第2節 地図から見る国内や国家間の結びつき ①グローバル化と多様な結びつき ②拡大する貿易 ③交通・通信、観光などのグローバル化					
	7月	第2部 国際理解と国際協力					
	8月	第1章 世界文化の多様性と国際協力 第1節 世界の地形と人々の生活 ①生活と地形の関わり ②地震・津波・火山活動による災害と防災 ③河川や海岸の地形と人々の生活 ④氷河地形・カルスト地形・乾燥地系と人々の生活			定期考査2	18	
	9月	第2節 世界の気候と人々の生活 ①生活と気候の関わり、気象災害と防災 ②熱帯の気候と人々の生活 ③乾燥帯の気候と人々の生活 ④温帯の気候と人々の生活 ⑤亜寒帯・寒帯の気候と人々の生活					
	後 期	10月			第3節 世界の産業と人々の生活 ①生活を支える農業の発展 ②生活を支える工業の発展 第4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活 ①宗教・民族・言語の多様性	定期考査3	18
		11月			第5節 多様な生活文化と地理的環境 ①世界から見た日本の生活文化 ②「産業」と生活文化（中国・アメリカ合衆国など） ③「結びつき」と生活文化（東南アジア・オセアニア） ④「宗教・歴史」と生活文化（インド・アフリカなど）		
		12月			第2章 地球的課題と国際協力 第1節 人口問題 ①人口増加と少子高齢化 ②地域で異なる人口問題と取り組み	定期考査4	22
		1月			第2節～第6節 地理に関わる諸問題 食料、都市、感染症、資源・エネルギー、地球環境など		
2月		第3部 持続可能な地域づくりと私たち 第1章 自然環境と防災については第2部に組み込んで学習する 第2章 生活圏の調査と地域の展望は第2部に組み込んで学習する					

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地理探究	単位数	4単位
-----	------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書	新詳 地理探究 (帝国書院)
地図帳	新詳高等地図 (帝国書院)

2 科目の目標

現代世界の系統地理的考察と地誌的考察をします。地図帳や統計資料なども用いながら地理的思考力、地理的なものの見方を身に付けます。そのことで、国際社会の中で、主体的に生きる資質を養うことを目標としています

3 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。	地理的事象から課題を見だし、それを系統地理的に考察したり、歴史的背景を踏まえて地誌的に考察したりし、国際社会の変化を踏まえて公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとする。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

4 評価方法と評価の場面

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容を記録しているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

授業が基本です。なぜ、どうしてこうなるのかを考えながら取り組みましょう。基本的な内容を身に付けるために地図帳や統計資料の活用をしましょう。また、白地図を積極的に活用し、地図で理解していくことに努めましょう。

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容		考查範囲	時数(予定)
前 期	4月	自然環境	地球環境と人間	定期考查①	40
	5月		地形		
			気候		
	6月		日本の自然環境		
			地球環境問題		
	7月	資源と産業	農林水産業	定期考查②	36
	8月	交通・通信と 観光、貿易	食糧問題		
			エネルギー、鉱産資源		
	9月	人口、村落・都 市	工業		
第3次産業					
10月	生活文化、民 族・宗教	村落と都市	定期考查③	36	
11月		現代世界の諸地 域			都市・居住問題
					衣食住
12月	1月	民族・宗教と民族問題	定期考查④	44	
		国家の領域と領土問題			
後 期	2月	持続可能な国土 像の探求	中国	定期考查④	44
			韓国		
	ASEAN諸国				
	インド				
	西アジアと中央アジア				
	北アフリカとサハラ以南アフリカ				
	EU諸国				
3月	ロシア				
	アメリカ合衆国				
3月	持続可能な国土 像の探求	ラテンアメリカ	定期考查④	44	
		オーストラリアとニュージーランド			
3月	持続可能な国土 像の探求	将来の国土の在り方	定期考查④	44	
		持続可能な国土像の探求			

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	地域の歴史・地理	単位数	2単位
-----	----------	-----	-----

1 科目の目標

地歴科目全般の学習内容を復習・活用しながら、地域の身近な事象についてその歴史や地理的背景について理解や考察を多角的に進め、諸問題を解決する方向に向けて構想し、理解した内容や構想したことを実証的にまとめ、発表する。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①提出されたレポートの成績 ②授業中の発問への回答 ③課題などの完成度	①定期考査1～4にあたり提出するレポートの評価該当所の成績 ②授業中の発問への回答 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。紹介資料を読むことが望ましい。

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	中信地区の自然環境 歴史区分について	中信地区の気候・地形の特質 古代・中世・近世・近代の区分について	定期考査① 20
	5月	身近な事象紹介①	地域の寺社とその由来 地域の祭事・催事 地域の歴史的建造物	
	6月	身近な事象紹介②	近世の歴史事象 地域の食と全国的つながり 地域の文化史	
	7月	身近な事象紹介③ 各自のテーマ設定	地域の教育史 地域の産業史 近代の地域の政治史	定期考査② 18
	8月		各自のテーマ設定 文献購読	
	9月	文献資料の扱い方 文献調査と経過報告	文献の引用法など基本事項の確認 ゼミナール形式での持ち回り発表	
後 期	10月	フィールドワークの仕方	フィールドワークの方法 フィールドワークの実践 (歴史の里見学)	定期考査③ 18
	11月	文献調査と経過報告	各自の課題に必要な文献を読みながら報告時点での経過を報告する。	
	12月	論述	調査内容をもとに論述活動をする	期末考査④ 22
	1月	論述	論述内容の推敲と完成	
	2月	発表	全員が、自分の書いた調査報告を発表する。	
	3月	論述集の編集	論述内容を冊子としてまとめる	

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	公共	単位数	2単位
-----	----	-----	-----

1 科目の目標

- ① 考察・選択・判断の手掛かりとなる概念・理論を理解し、諸資料から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめる技能を身に付ける。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意を形成し社会に参画することを視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。
- ③ よりよい社会の実現をめざし、現代社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、人間としての在り方・生き方について考え、主権者として自国の平和や繁栄を図り、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

教科書・・・『公共 新訂版 共につくる未来』（実教出版）

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考査範囲	時数	
前 期	第1部 公共の扉				
	4月	第1章 社会を作る私たち	①青年期の心理特性とアイデンティの確立 ②職業生活と社会参加 ③伝統・文化と価値観形成	定期考査①	20
	5月	第2章 人間としてよく生きる	①古代ギリシアの人間観 ②科学と人間 ③自由 ④より善い社会を形成する		
	6月	第3章 他者とともに生きる	①個人と社会全体の幸福 ②相互に尊重しあう公正な社会		
	7月	第4章 民主社会の倫理	①人間の尊厳と平等 ②自由・権利と責任・義務		
		第5章 民主国家における 基本原理	①民主政治の成立 ②個人の尊重、法の支配などの基本原理 ③民主政治の課題 ④世界の主な政治制度		
	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち				
	8月	第1章 現代の民主政治と日本国憲法 日本国憲法の基本的性格	①日本国憲法の成立と基本的性格 ②様々な人権と公共の福祉 ③平和主義とわが国の安全	定期考査②	18
	9月	第2章 日本の政治機構 と政治参加	①三権分立とあ ②現代政治の諸課題 ③地方自治の役割 ④政党政治と選挙制度 ⑤公正な世論形成と政治参加		
	後 期	第2 現代の経済社会と国民生活			
10月		第1章 現代の経済社会	①経済主体と経済活動の意義 ②経済社会の変容 ③市場経済の特徴と問題 ④金融の役割と課題 ⑤財政・租税の役割と課題	定期考査③	18
11月		第2章 日本経済の特色	①戦後日本経済の変化と課題 ②農業と食糧問題 ③消費者問題 ④環境問題 ⑤労働問題 ⑥社会保障の役割と課題		
第3 国際社会と人類の課題					
12月		第1章 国際政治の動向と 課題	①国際社会と国際法の意義 ②国際連合 ③国際政治の諸問題と日本の役割	定期考査④	22
1月	第2章 国際経済の動向と 課題	①貿易と国際収支、外国為替市場のしくみ ②第二次世界大戦後の国際経済の変化、 グローバルに関わる課題			
第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち					
2月	持続可能な社会作りの主体となる私たち				

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	政治・経済	単位数	2単位
-----	-------	-----	-----

1 教科書・副教材

教科書 最新 政治・経済 新訂版 (実教出版)

2 科目の目標

<p>○社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。</p> <p>○国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養わせる。</p> <p>○よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深めさせる。</p>

3 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、ま	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況	a: 十分満足できる状況
	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況	b: おおむね満足できる状況
	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況	c: 努力を要する状況

4 評価方法と評価の場面

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業への出席状況及び授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容を記録しているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

5 学習の計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	現代の国際社会 国際政治の動向と課題 ○国際社会と国際法○国際社会の変化 ○国際連合と国際協力	定期考査①	20
	5月	○こんにちの国際政治 ○人種・民族問題 ○軍拡競争から軍縮 ○日本の外交と国際社会での役割		
	6月	現代社会の経済 現代の経済社会 ○経済活動、経済社会 ○経済の主体 企業の役割		
	7月	○国民所得、経済成長と国民の福祉 ○金融の役割、日本銀行の役割 ○財政の役割と租税、課題	定期考査②	18
	8月	現代の日本経済と福祉の向上 ○日本経済の成長と課題 ○中小企業と農業、消費者問題		
	9月	○公害防止と環境保全 ○労働問題 ○社会保障の役割と課題		
後 期	10月	現代日本の政治 現代国家と民主政治 ○民主政治 ○世界の主な政治制度	定期考査③	18
	11月	日本国憲法と基本的人権 ○日本国憲法の成立、基本原理 ○基本的人権の保障		
	12月	○平和主義 日本の政治制度と政治参加 ○国会・内閣・裁判所、地方自治、	定期考査④	22
	1月	○政党政治、選挙制度、世論 現代の国際経済 国際経済理論 ○貿易と国際収支、外国為替市場		
	2月	国際経済の動向と課題 ○国際経済、新公庫奥の台頭 ○経済のグローバル化とICTで変わる世界経済		
	3月	○発展途上国の課題と展望 ○地球環境問題、資源エネルギー問題 ○経済協力と日本の役割		

6 学習にあたっての注意とアドバイス

新聞やニュースを見て、社会事象全般に関心を持つことが大切である。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。他の生徒の考えを聞き、さらに探求し、自分の考えを深めていくことが必要です。

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	倫理	単位数	2単位
-----	----	-----	-----

1 科目の目標

- ①考察・選択・判断の手掛かりとなる事実・概念・理論を理解し、先人の思想の中から必要な情報を適切かつ効果的に調べ、まとめることを通じて自らの思索を深める技術を身に付ける。
 ②人間としてのあり方生き方における諸課題の解決に向けて、過去の人類の思想的積み重ねをもとに多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、より深い人間理解に基づき社会に参画しようとする意志を高める。
 ③よりよい人間としてのあり方生き方を追求し、現代社会における人間の倫理的な諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況	a:十分満足できる状況 b:おおむね満足できる状況 c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④討議の中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤討議の中での発言 ⑥生徒自身の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

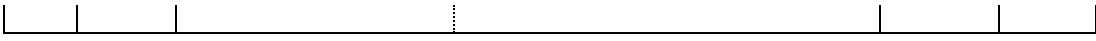
自分自身のふだんの生活において、それぞれの行為や思索が、自分自身のよりよいあり方や生き方とどう結びついてくるのか、考えてみる姿勢が重要です。先人の思想や思索の課題を単に知識としてだけでなく、自分自身のこれからの生き方に生かせるように主体的に学習していきましょう。

5 教科書・副教材

教科書・・・『高等学校倫理』（第一学習社・倫理705）

6 年間指導計画

		学習の内容	考査範囲	時数	
前期	4月	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方	定期考査①	20	
		第1章 人間の心と自己形成			1 青年期の課題と自己形成
	5月	第2章 人間の存在や価値と宗教			1 ギリシアの思想
					2 ユダヤ教とキリスト教
	6月	第3章 人間のあり方と社会			3 イスラーム
					4 仏教
7月	第4章 現代の人間と社会をとらえる思想	5 中国の思想			
		6 宗教や芸術			
8月	第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚	1 人間の尊厳			
		2 科学革命の時代と自然観			
後期	9月	第2編 現代の諸課題と倫理	定期考査②	18	
					3 自由で平等な社会の実現
	10月	第1章 生命の問題と倫理課題			4 人間性の回復と主体性の確立
					1 現代の思想と人間像
	11月	第2章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理			2 生命への畏敬と社会参加
					3 西洋思想との出会い
12月	第3章 福祉の向上と倫理的課題	1 日本固有の思想			
		2 外来思想の受容			
1月	第4章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理	3 町人意識の目覚めと庶民思想			
		4 西洋思想との出会い			
2月	第5章 国際平和と倫理的課題	1 日本固有の思想			
		2 外来思想の受容			
			定期考査③	18	
			定期考査④	22	



令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	教養社会	単位数	2単位
-----	------	-----	-----

1 科目の目標

地歴公民科目全般の学習内容を復習、活用しながら国内外における現代の諸問題の原因や現状について理解や考察を多角的に進め、諸問題を解決する方向に向けて構想し、理解した内容や構想したことを発表する。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	①学習内容について理解している。 ②適切かつ効果的に情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。	①学習内容について多面的・多角的に考察し、表現している。	①意欲的、主体的に理解や考察を進め、工夫してまとめ、表現しようとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
①定期考査1～4の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答内容 ③課題などの完成度	①定期考査1～4の評価該当箇所の成績 ②授業中の発問への回答や演習問題の解答方法 ③課題などの完成度 ④話し合いの中での発言	①授業での説明を聞く態度や課題に取り組む態度 ②板書や説明内容をしっかり書き留めているか ③積極的に疑問点を探し解決しようとしているか ④課題などの完成度 ⑤話し合いの中での発言 ⑥生徒の自己評価

4 学習にあたってのアドバイスや注意事項

日頃から新聞やニュースなどを見聞きし、社会全般に関心を持つこと。また授業を大切にし板書や説明を参考に自分なりにまとめ、まとめたことについて考え、考えたことを発表できるようにする。

5 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。

6 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考查範囲	時数
前 期		I. 国際社会		
	4月	1. 国際対立と地域紛争 ①対立、戦争 A. 冷戦から新冷戦へ B. 対立や戦争の状況と原因 アメリカとイラン・イラク・アフガニスタン、同時多発テロ、ウクライナ戦争など	定期考查1	20
	5月	②不安定な東アジア情勢 A. 朝鮮戦争 B. 中国・台湾問題 C. 南沙諸島問題		
	6月	③日本の領土問題 A. 尖閣諸島 B. 竹島 C. 北方領土		
	7月	D. ドイツの領土問題		
	8月	2. 核兵器・軍縮問題 ①核兵器の歴史と現状 ②核兵器を捨てられないのはなぜか ③核軍縮・核廃絶への道	定期考查2	18
	8月	3. 国際連合と地域統合 ①国際連合 ②EUなど		
	9月	II. 現代政治 1. 民主政治の原理 ①民主政治の基本原理と民主政治の歩み ②民主政治の歴史と原理 ③世界の政治体制（アメリカ・イギリス・中国など） ④民主政治の原理と日本国憲法		
	10月	2. 国会 ①日本の国会のしくみと働き ②選挙と政治、政党と政治		
後 期		III. 現代経済		
	11月	1. 日本の財政問題 ①財政のしくみと機能 ②日本の財政の現状（一般会計の特徴） ③日本の借金とその原因 ④日本の租税の特徴と問題点	定期考查3	18
	12月	2. 日本の社会保障問題 ①生存権と社会保障の歴史 ②日本の社会保障制度 A. 少子高齢化と社会保障の財源 B. 社会保険の特徴と問題点		
	1月	3. 日本の労働問題 ①労働基本権と労働三法、労働組合の意義 ②労働条件の改善 A. 労働基準法 B. 様々な雇用形態と労働形態 C. 雇用、失業、賃金などの状況 ③非正規雇用 ④男女格差	定期考查4	22
	2月	4. エネルギーと環境問題 ①地球環境問題 ②原子力発電		

令和8年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	国際社会と情報	単位数	1単位
-----	---------	-----	-----

1 教科書・副教材

適宜資料をコピーして配布。

2 科目の目標

現代社会の情報化の観点から、国内外における現代の諸問題について関心を持つとともに主体的に考え、情報化社会を生きる力を養う。

3 学習の計画

		学 習 の 内 容		考査範囲	時数(予定)
前 期	4月	情報化社会の課題	産業構造の変化	定期考査 1	6
	5月		社会生活の変化と課題		
	6月	国際社会の現状と課題	国際経済の仕組み	定期考査 2	9
	7月		国際政治の現状		
	8月		日本経済の歩み		
9月	日本の農業と食糧問題 労働問題 貿易の仕組み	定期考査 3	10		
後 期	10月	情報技術の仕組み	課題の調査	定期考査 4	9
	11月		レポートの作成		
	12月				
	1月	発表とまとめ	プレゼンテーション準備	定期考査 5	5
	2月		レポートの発表		
3月					

4 評価の方法

授業への参加や作成課題等の内容から、授業の内容が理解できたか、ねらいとする知識や技能が身についたかを総合的に評価する。

5 学習にあたっての注意とアドバイス

※ 日頃から少しでもニュースや新聞に触れて、社会の概要・現状を知ろうとすることが大切です。